

2013年3月期(平成25年3月期)

決算説明会

2013年5月17日

株式会社ジャムコ

技術のジャムコは、 士魂の気概をもって

- 一、夢の実現にむけて挑戦しつづけます。
- 一、お客様の喜びと社員の幸せを求めていきます。
- 一、自然との共生をはかり、豊かな社会づくりに貢献します。

- この資料に掲載されている情報のうち歴史的事実以外のものは、発表時点で入手可能な情報に基づく当社の経営陣の判断による将来に関する見通しであり、経済動向、為替レート、市場需要、税制や諸制度に関するさまざまなリスクや不確実な要素を含んでおります。実際の業績はこれらの見通しとは異なる結果があり得ることをご承知おきください。
- この資料における数値は、表示桁未満を四捨五入して作成、表示しております。したがって、決算短信、有価証券報告書など、表示桁未満を切捨てにて作成、表示している資料とは末尾数値が異なる箇所がございますのでご了承ください。
- この資料に掲載されているセグメント売上高及びセグメント経常利益は、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成22年6月30日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号平成20年3月21日)を適用しております。
- 本資料を(株)ジャムコの許可無く転載・複写することを禁じます。又、本資料を使用することにより生じたいかなる損害について(株)ジャムコは一切責任を負いません。

Contents

I 2013年3月期決算の状況

グループ各社の状況	4
業績概要(連結)	5
売上高(連結)	6
経常利益(連結)	7
2013年3月期 決算のポイント	8
貸借対照表(連結)	9
減価償却費/設備投資額/試験研究費(連結)	10

II 中期3ヶ年計画(2013~2015年度)

経営環境と市場動向	12
内装品セグメント	15
機器製造セグメント	17
整備セグメント	19
グループ連結	21
減価償却費/設備投資額/試験研究費(連結)	22
2013年度 受注状況見通し(連結)	23
2013年度 業績予想(連結四半期)	24

2013年3月期 決算の状況

CATEGORY	グループ各社の状況	4
	業績概要 (連結)	5
	売上高 (連結)	6
	経常利益 (連結)	7
	2013年3月期決算のポイント	8
	貸借対照表 (連結)	9
	減価償却費／設備投資額／試験研究費 (連結)	10

【単位:百万円】

	当 社	新潟 ジャムコ	宮崎 ジャムコ	ジャムコ アメリカ	ジャムコ ヨーロッパ	ジャムコ エアロデザイン エンジニアリング	ジャムコ フィリピン	ジャムコ エアロ マニファク チャリング	徳島 ジャムコ	ジャムコ エアロテック	その他	シンガポール ジャムコ
売上高	45,412	2,530	1,919	9,224	598	1,340	93	0	768	313	137	3,225
営業利益	3,076	25	4	△ 323 (94)	△ 50	166	△ 71	△ 19	21	2	16	75
経常利益	3,571	42	15	△ 423 (△ 6)	△ 51	169	△ 74	△ 19	20	2	16	77
当期純利益	2,147	25	9	△ 258 (17)	△ 53	146	△ 75	△ 12	12	0	9	86

(注1)「その他」はオレンジジャムコ、ジャムコテクニカルセンターの合算値です。

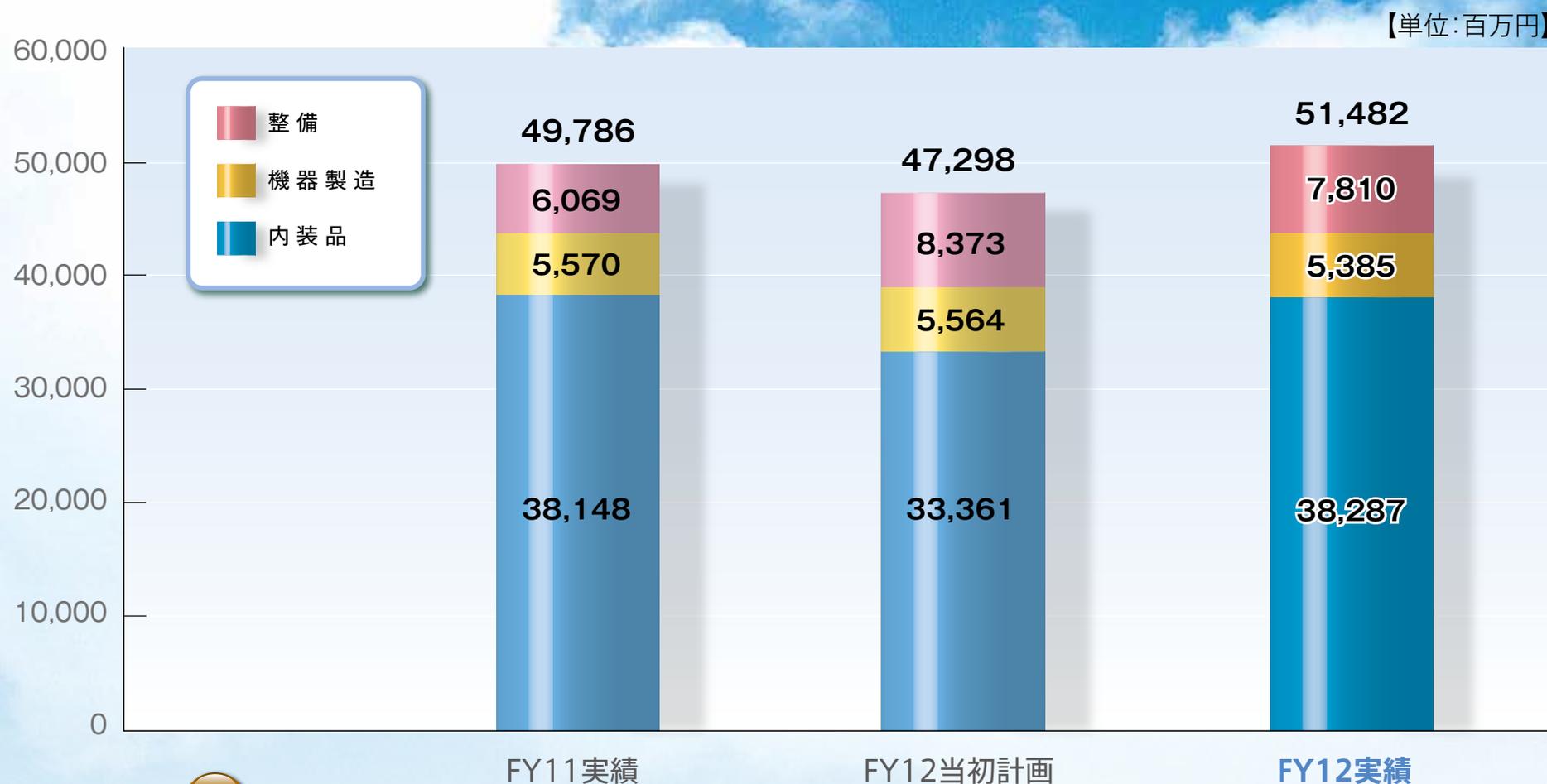
(注2)シンガポールジャムコは持分法適用関連会社です。

(注3)ジャムコアメリカは787関連開発費の償却について当社と同じ基準で会計処理しています。括弧内の数値は「米国基準」における数値です。

【単位:百万円】

	FY12実績	FY11実績	前期比	FY12当初計画	計画比
売上高	51,482	49,786	+3%	47,298	+9%
営業利益	2,886	1,070	+170%	1,037	+178%
経常利益	3,105	603	+415%	742	+318%
税引前当期純利益	3,013	573	+426%	726	+315%
当期純利益	1,710	12	—	386	+343%
1株当たり 当期純利益(円)	63.73	0.44	—	14.35	—
売上為替レート (円/USドル)	82.79	79.31	—	78.00	—

(注)当初計画とは、2012年5月11日の決算発表時における予想値です。



POINT

FY12当初計画対比

- 内装品はスペアパーツ販売の増加、円高是正による外貨建て売上高の増加
- 機器製造は顧客先の生産調整により僅かに減少
- 整備は仙台整備工場の受注量が不足したことで減少

(注) 当初計画とは、2012年5月11日の決算発表時における予想値です。

【単位:百万円】



POINT

FY12当初計画対比

- 整備は受注量不足による操業度の低下、及び採算性の悪い工事の完成により悪化
- 機器は採算性の良い熱交換器等の出荷が集中したことで増益
- 内装品はギャレー、ラボトリー等主力製品の売上高増加、スペアパーツ販売の増加、コスト削減、及び為替差益により増益

(注) 当初計画とは、2012年5月11日の決算発表時における予想値です。

前期比				当初計画比			
	【単位:百万円】				【単位:百万円】		
	FY12実績	FY11実績	差異		FY12実績	FY12当初計画	差異
経常利益	3,105	603	2,502	経常利益	3,105	742	2,363
売上総利益	8,580	5,734	2,846	売上総利益	8,580	6,441	2,139
販管費	5,694	4,663	1,031	販管費	5,694	5,404	290
営業外損益	220	△ 467	687	営業外損益	220	△ 295	515

(注) 当初計画とは、2012年5月11日の決算発表時における予想値です。

POINT

● 前期比

売上総利益：内装品の円高是正による外貨建て売上高の増加、スペアパーツ販売の増加、他原価低減効果。仙台整備工場が震災復旧後通期で正常稼働したことによる増加

販管費：内装品の保証工事費が増加
震災復旧からの正常稼働に伴い増加

営業外損益：FY11為替差損 (Net) 2.2億円、FY12為替差益 (Net) 4.2億円

● 当初計画比

売上総利益：内装品の円高是正による外貨建て売上高の増加、スペアパーツ販売の増加、他原価低減効果

販管費：内装品の売上高増加により、販売手数料、保証工事費が増加

営業外損益：FY12当初計画為替差損益 0億円、FY12実績為替差益 (Net) 4.2億円

貸借対照表(連結)

【単位:百万円】

科目	FY12末 2013年3月31日現在	FY11末 2012年3月31日現在
〈資産の部〉		
流動資産		
現金及び預金	2,580	2,902
● 受取手形及び売掛金	17,757	14,929
● 棚卸資産	25,453	22,360
その他流動資産	3,955	3,674
流動資産合計	49,745	43,865
固定資産		
● 有形固定資産	10,033	8,804
無形固定資産	1,221	1,028
投資その他の資産	3,546	3,173
固定資産合計	14,800	13,005
資産合計	64,545	56,870

【単位:百万円】

科目	FY12末 2013年3月31日現在	FY11末 2012年3月31日現在
〈負債の部〉		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,684	7,440
短期借入金	17,979	17,767
● その他流動負債	9,616	6,280
流動負債合計	36,279	31,487
固定負債		
長期借入金	4,607	3,624
その他固定負債	6,352	6,397
固定負債合計	10,959	10,021
負債合計	47,238	41,508
〈純資産の部〉		
純資産合計	17,307	15,362
負債及び純資産合計	64,545	56,870

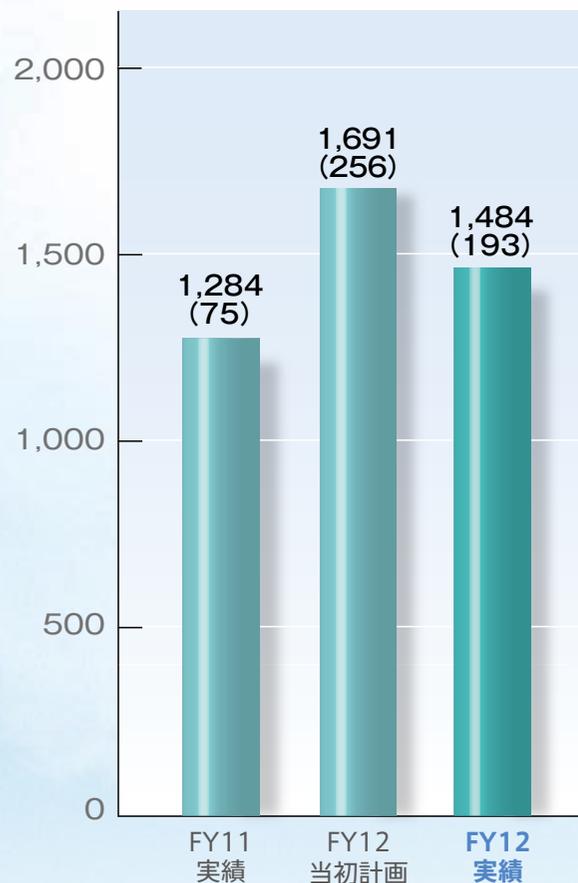
POINT

- 売上高増加に伴い、売掛金、棚卸資産が増加
- 宮城県名取市新工場建設で固定資産が増加

- その他流動負債の主な増加要因は、未払法人税の増加(前期比1,439百万円増)、前受金の増加(前期比1,875百万円増)

【単位：百万円】

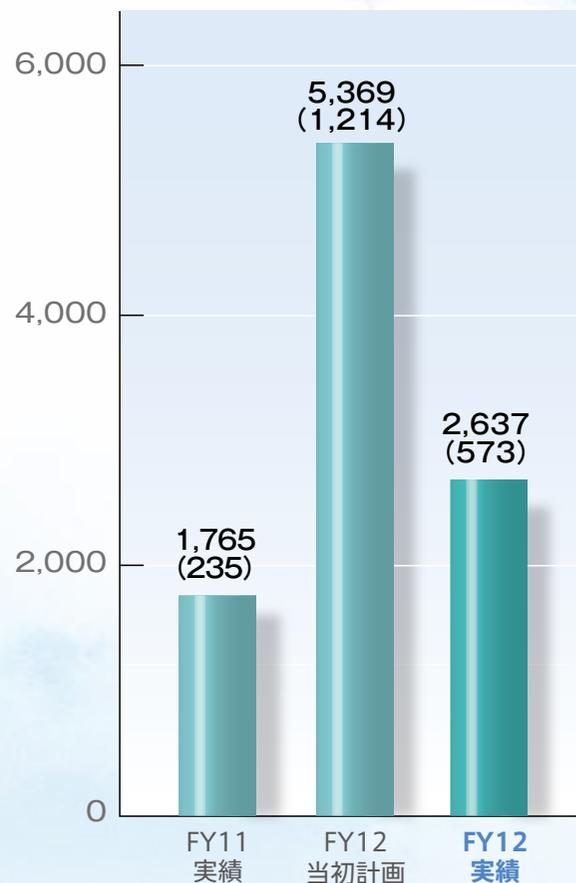
減価償却費（連結）



()内はリース資産分

【単位：百万円】

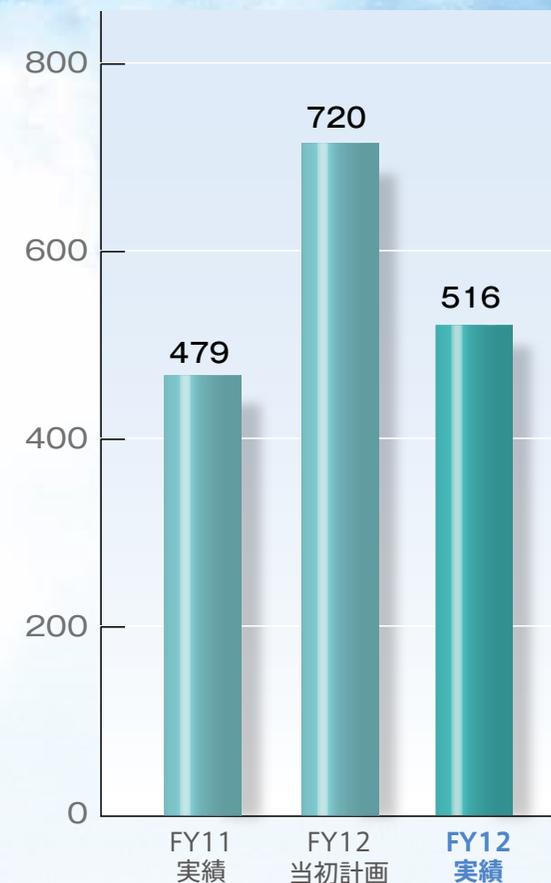
設備投資額（連結）



設備投資には()内の全リース物件を含む

【単位：百万円】

試験研究費（連結）



(注) 当初計画とは、2012年5月11日の決算発表時における予想値です。

中期3ヶ年計画 (2013～2015年度)



経営環境と市場動向.....	12
内装品セグメント.....	15
機器製造セグメント.....	17
整備セグメント.....	19
グループ連結.....	21
減価償却費／設備投資額／試験研究費（連結）.....	22
2013年度受注状況見通し（連結）.....	23
2013年度業績予想（連結四半期）.....	24

- ① ボーイング、エアバスともに増産体制を本格化**
 - 787は現在月産5機から、2013年後半に月産10機へ
 - 777は現在月産7機から、2013年初頭に月産8.3機へ
 - 747-8は月産2機を維持
 - A350開発本格化

- ② エアラインは原油高や低価格競争により厳しい経営環境**
燃費の良い新型機種の導入やLCCの設立、資本提携の活発化

- ③ 為替相場は円安基調で推移すると想定するが、欧州の財政破綻懸念による為替リスクもあり、中期3ヶ年計画は90円/USドルで立案**

航空機メーカーの動向 (2013年3月末日時点)

● ボーイング社の受注残機数

狭胴機 3,125 機 (前年同期2,679機)

広胴機 1,320 機 (前年同期1,366機)

● エアバス社の受注残機数

狭胴機 3,889 機 (前年同期3,329機)

広胴機 1,059 機 (前年同期1,067機)

出所：Speed News Home Page「COMMERCIAL AIRCRAFT PROGRAM STATUS:MARCH 31,2013」より

新型旅客機の開発・生産状況

● 787の生産状況

- 2013年3月末日現在 8顧客に50機引き渡し完了
- 2013年3月末日現在 受注残機数840機
- 2013年後半から月産10機を計画

● A350XWBの開発状況

- 2014年に就航する予定
- 2013年3月末日現在 受注残機数は616機

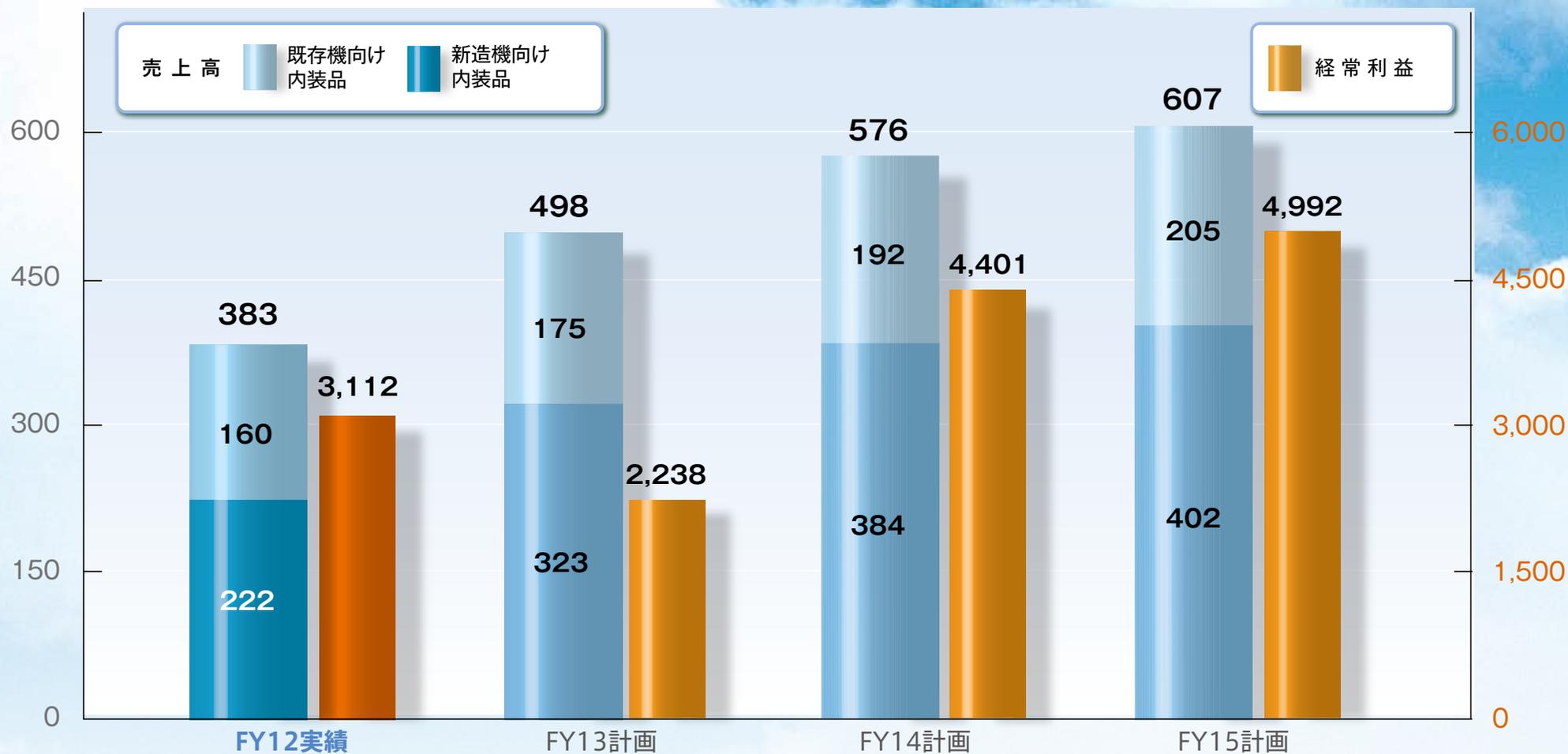
● A380の生産状況

- 2013年3月までに、101機引き渡し完了
- 2013年3月末日現在 受注残機数は161機

(注) 受注データについてはボーイング社、エアバス社HPより

【単位：億円】

【単位：百万円】



(注)中期計画の為替レート FY13~15: 90円/USドル

① 787プログラムをはじめとした増産体制の確立

- 787を含むギャレー全体の生産数量は2014年度に月産150ユニットへ増加(2012年度の生産数量は月産平均で90ユニット)
- エンジニアリング能力、生産能力、部品製作委託先能力の拡充

② 為替変動に左右されないための取組みの推進

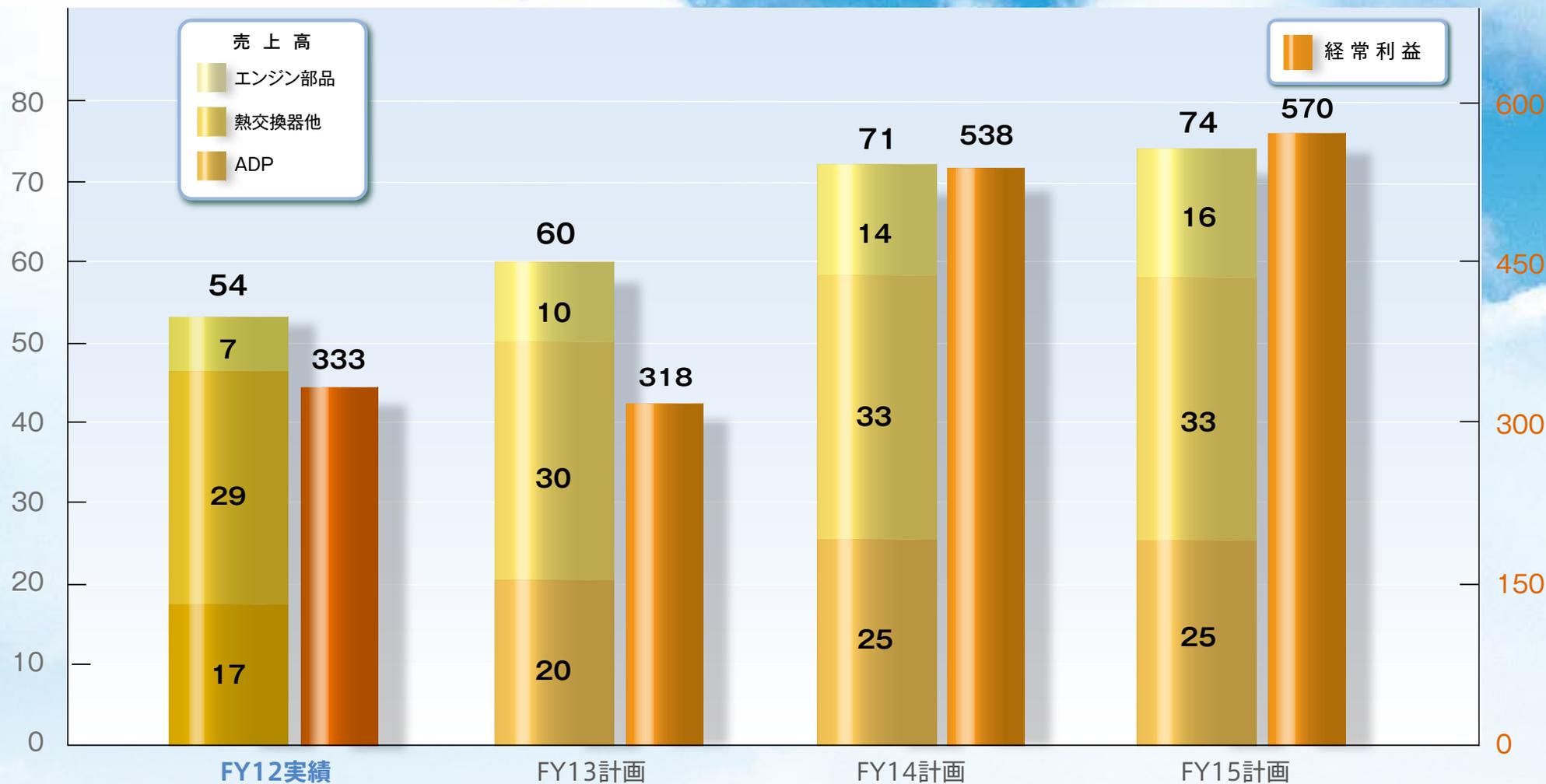
- 海外子会社の活用によるコスト低減、及び海外調達率の引き上げ
- 円建て契約の推進
- 価格維持競争力の強化(商品提案力、品質)

③ 新規事業の検討

- シート事業本格参入へ向けた取組みの推進
- その他内装品事業の業容拡大

【単位：億円】

【単位：百万円】



(注)中期計画の為替レート FY13~15: 90円/USドル

① コア製品である従来品(熱交換器等)の受注の確保と収益の向上

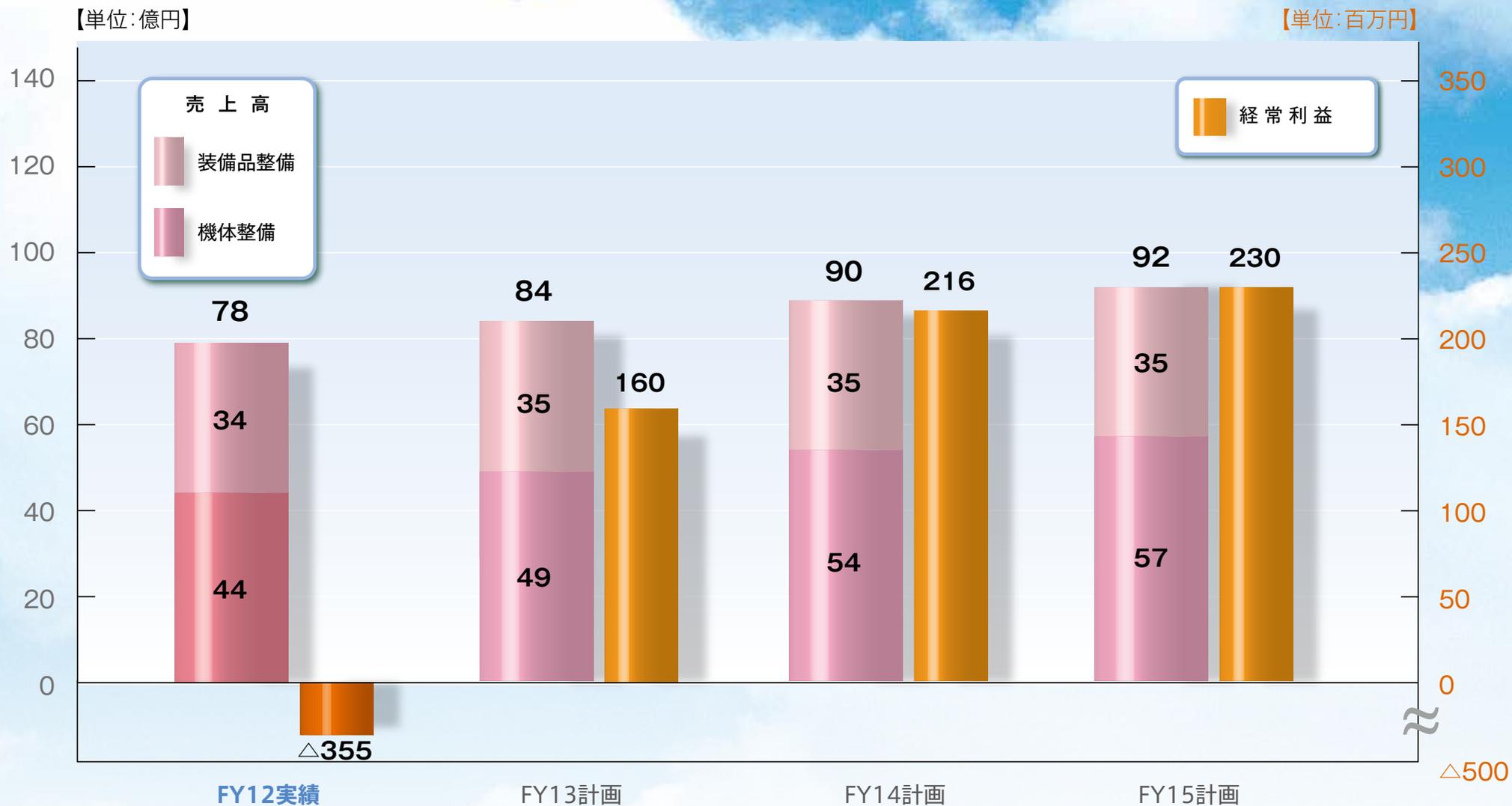
- 改善活動の推進
- 作業者の多能工化、及び作業の平準化
- 技能、知見の継承

② 宮城新工場移転後の生産体制の構築

- 新工場・新会社による生産体制の早期構築と定着の推進
- 既存工場の有効活用

③ 航空機炭素繊維構造部材ADP事業の競争力向上と収益改善

- 改善活動の推進
- 内製化の促進
- ADP技術応用製品の開発促進



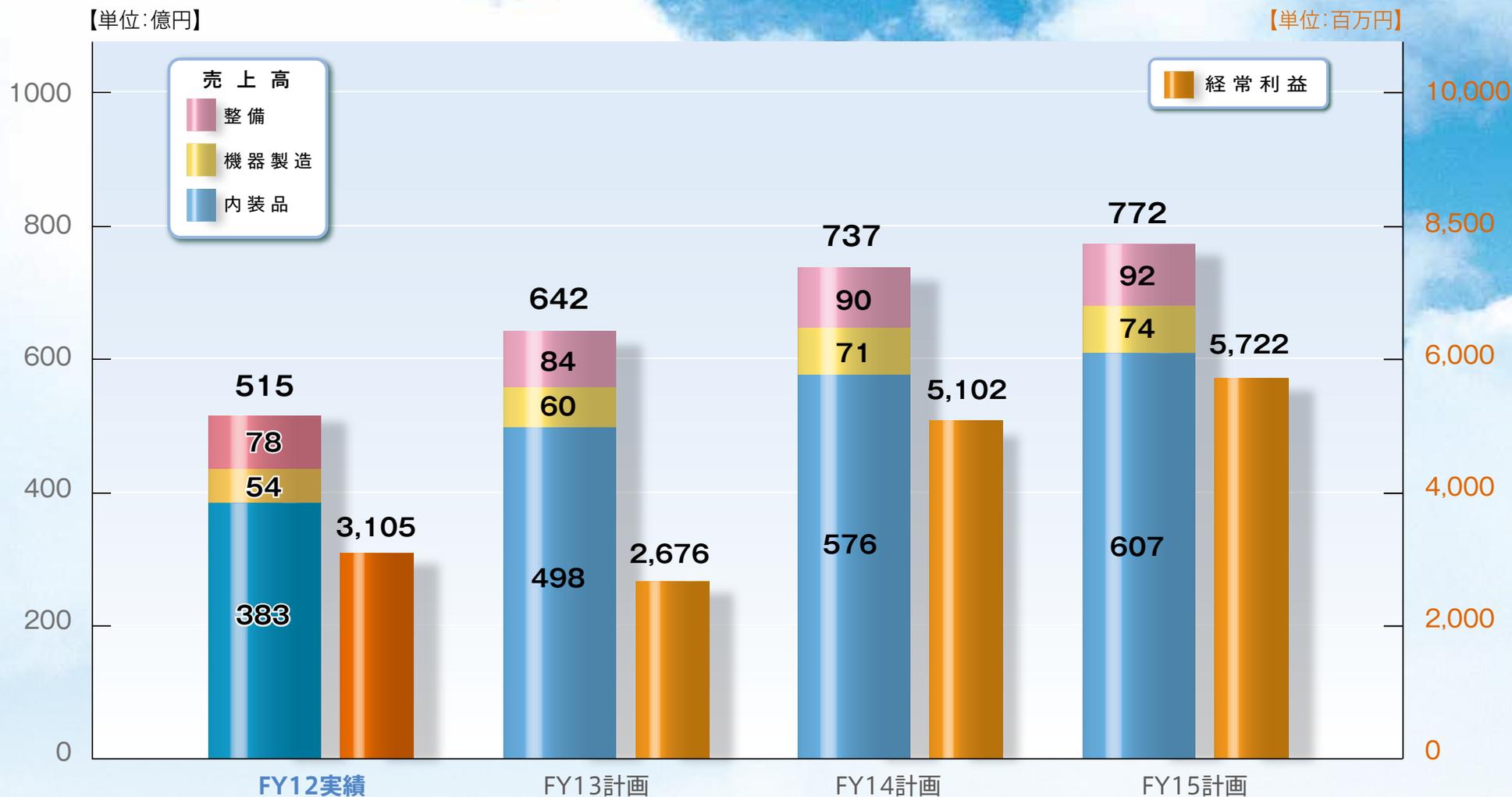
① 機体整備の受注拡大と装備品整備の領域拡大

- 機体整備工場の受注拡大と稼働率向上
- 装備品海外修理の受注

② 品質保証体制の強化

③ 事業効率の改善

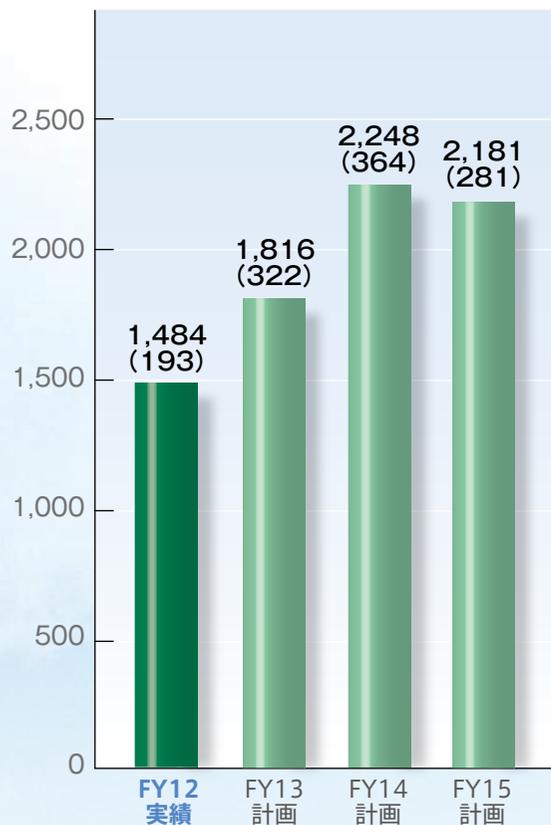
- 事業規模に適した効率的な組織構造への再編



(注)中期計画の為替レート FY13~15: 90円/USドル

【単位:百万円】

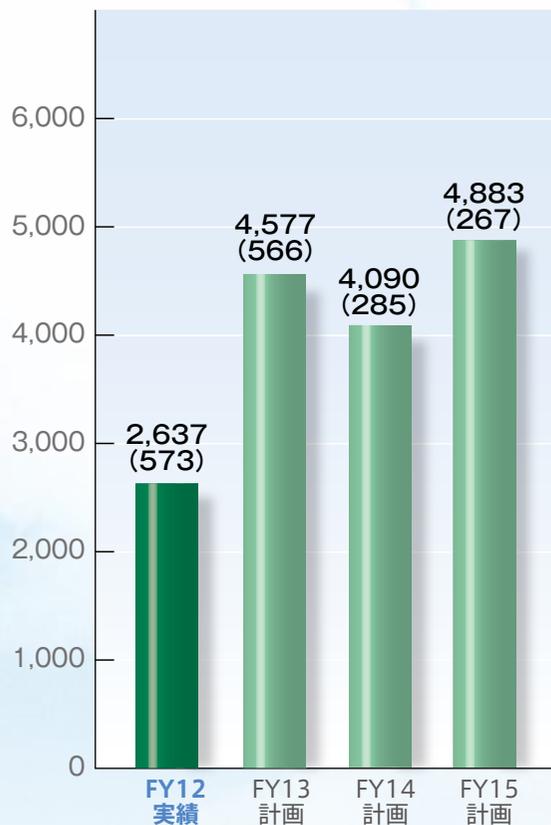
減価償却費(連結)



()内はリース資産分

【単位:百万円】

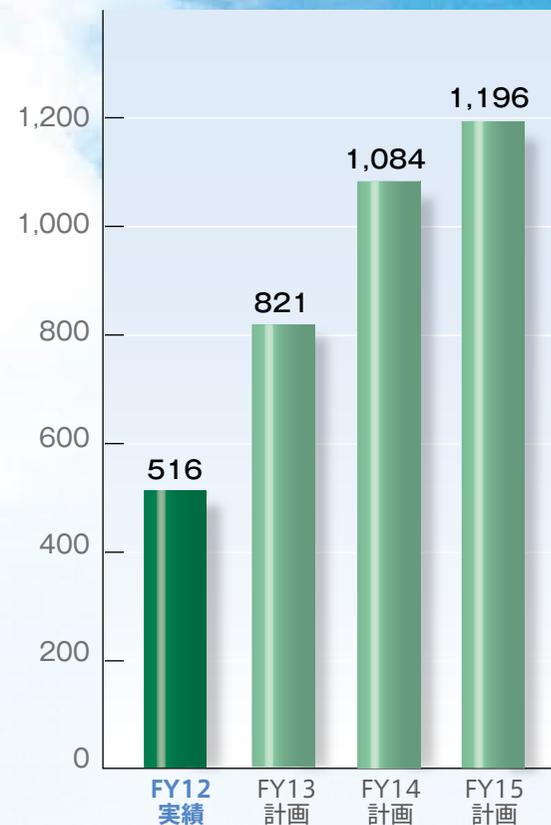
設備投資額(連結)



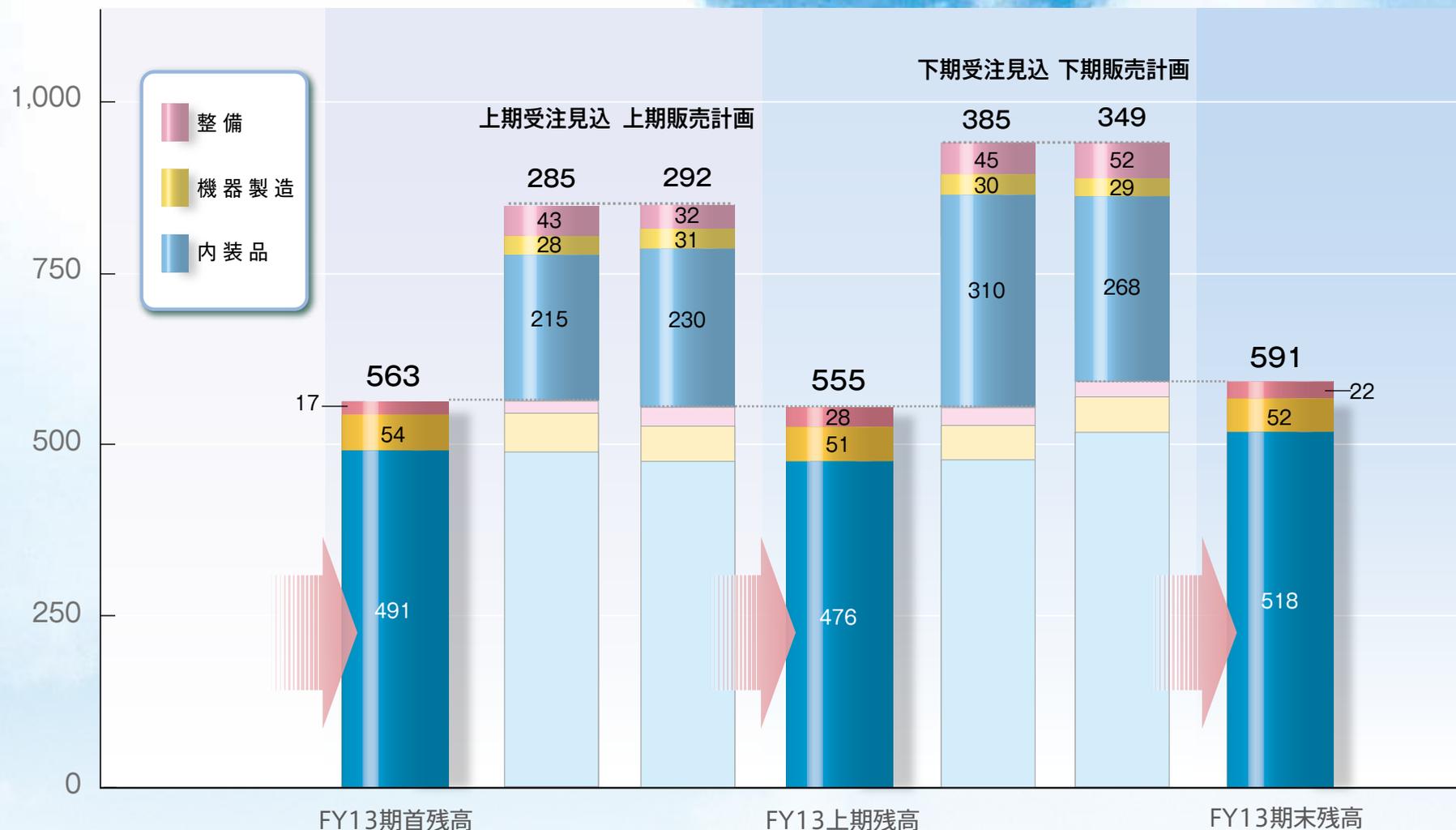
設備投資には()内の全リース物件を含む

【単位:百万円】

試験研究費(連結)

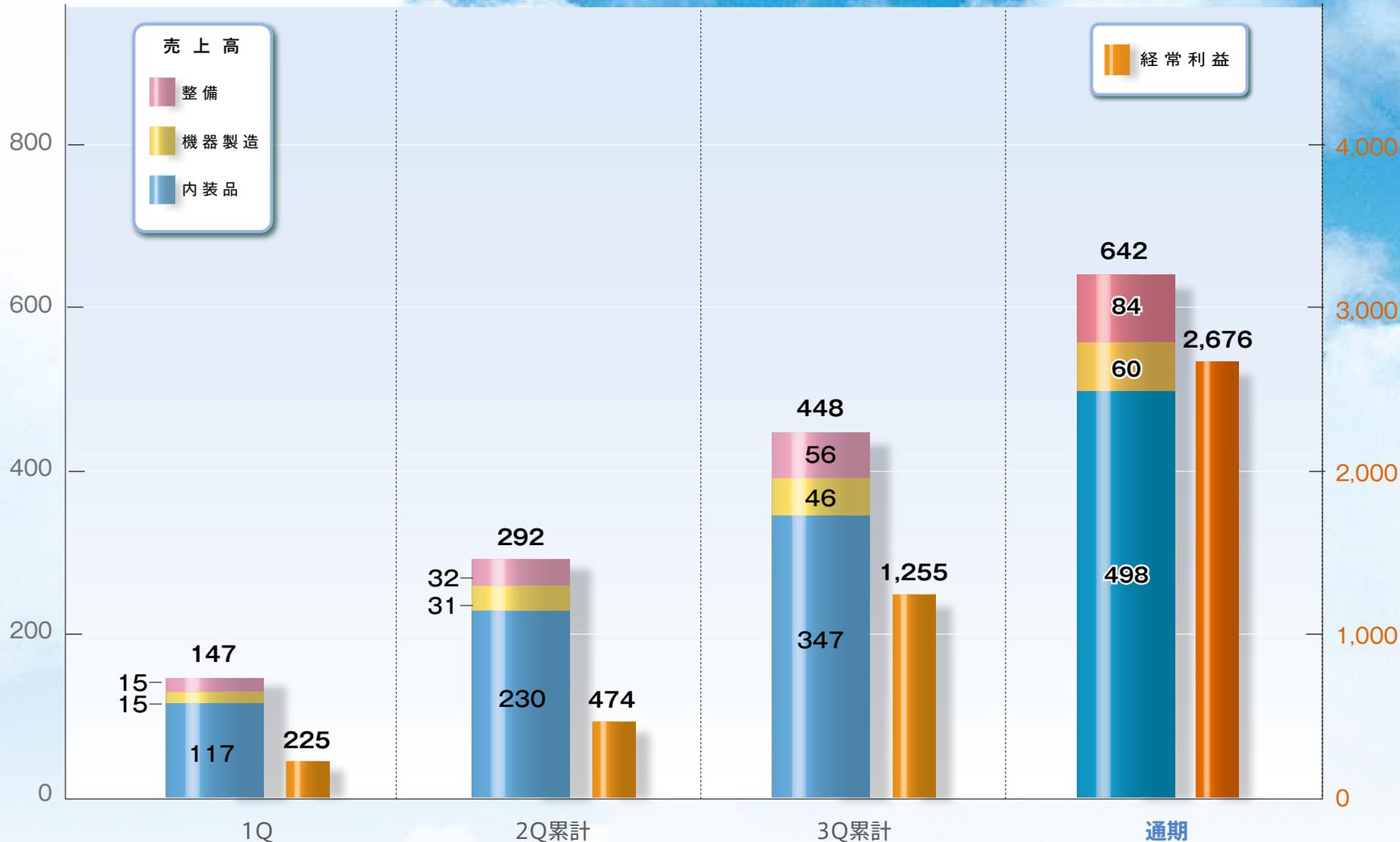


【単位:億円】



【単位：億円】

【単位：百万円】



(注)中期計画の為替レート FY13~15: 90円/USドル

技術を翼に世界の空へ

 **Jamco**
ALWAYS FLY TOGETHER



Always Fly Together